

平成21年末より、竜山周辺にお住まいの皆さまにアンケート調査を実施しました。今回、石の宝殿や竜山周辺の「石の文化的な景観（風景）」について、好きな景観や残したい景観、好きでない景観を挙げていただき、その結果について一例をご紹介します。

好きな景観や残したい景観には、竜山全体や生石神社山頂辺りからの景観など、広がりをもせる景観や屏風岩などの採石場（石切場）そのものを挙げられている人が多く、おられ、石の景観について様々な年齢の人が好ましく思われているようでした。さらに、季節感を感じられる桜や紅葉などが見られる景観、生石神社や加茂神社などの神社仏閣を挙げられている人も多くおられました。そのほかでは、親観処といった石の文化を代表する歴史的な景観、総合運動公園などの現代的なものも多くありました。

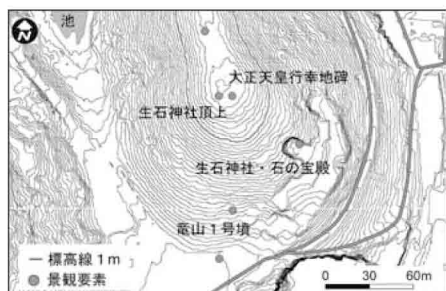
反対に、好きでない景観についてもお聞きしました。その内訳を見ますと、採石場の跡地利用の現状を気にしている人が多くおられました。これは、地域にお住まいの人にとって、あまり望ましくない景観の一つとして捉えられているものと思われる。また、公園

などでの悪いマナーが、良い場所を悪くしているといったことも挙げられていました。景観は、見る人それぞれに受け取り方が変わってきますが、今回の調査で、ご協力いただいた皆さまの地域の景観を感じる場所や物については、竜山のような

文化財総合的把握モデル事業

ひと・まち・石

問合先

教育委員会
生涯学習課文化財係
☎448-8255

景観の分布位置の図

存在感のある場所や採石場（石切場）などに愛着を持っていると調査の結果から感じました。これは、高砂における石の文化的な景観が浸透し、生活の中に溶け込んでいるものと思われる。アンケート結果は、解析などを進め、報告書の中でお知らせします。

景観の調査は、継続性が必要と考え、今後も貴重な意見を求めたいと考えていますので、ぜひ、調査にご協力ください。また、今回のアンケートにご協力いただいた皆さまに深くお礼申し上げます。

（京都府立大学大学院・

福井 亘）